

ヴォーカル学科

2年次生

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ヴォイストレーニングⅢ
担当講師名	谷本真規
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、シンガー、俳優、作編曲家、ヴォイストレーナーとしての経験があり、著名なプロシンガーや俳優声優の育成やサポートの実績も多数。

授業内容

解剖学的観点から作りあげた独自の発声理論を基に、人数にあった形でヴォイストレーニングを行い、発声レベルから歌唱テクニックや表現までのレベルを上げていきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

声量と音域の拡張、声の質感や表現のバリエーション、多様なジャンル傾向に対応できる声の幅と歌唱感覚の確保など、声と歌唱の自由度をできるだけ広げてあげること

授業計画（1回目から7回目）

- ①新年度の授業説明 個別インタビュー（反省と目標） 基礎の復習
- ②ボディーバランス説明と体感 基本発声と発声理論講義 横隔膜呼吸の復習と訓練
- ③裏声基本練習と裏声歌唱 グループの感じ方復讐と基本練習
- ④滑舌基礎運動1 母音形状練習 口内共鳴変化 裏声滑舌
- ⑤滑舌基礎運動2 子音と英語共鳴の感覚 裏声朗読 裏声歌唱
- ⑥ボディーバランス強化 ヴォイスミックスの感覚トレーニング
- ⑦1クォーター復習 中間実技試験(課題曲) 疑問質問の回答と解消

中間試験評価方法・評価基準

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢（出席状態） 理解度 成長度 ボディーバランスの定着度 声帯の柔軟さ 発声の安定感
出席：20% 平常点：40% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧喉の構造と高音発声の状態を把握 ミックス(ミドル)ヴォイスの概念と感覚練習
- ⑨ボディーバランスと呼吸筋の脱力と緊張 ミックスヴォイス習得 音域拡張練習
- ⑩声門開口の体感 息声に音程と言葉をつける練習
- ⑪声門間隔と声帯のテンション感覚による 声質の変化と表現
- ⑫ロックシンガー傾向の発声パターンで声の張り方と表現を学ぶ
- ⑬声の抜き方 しゃがれ方 ベルティングとの使い分け
- ⑭ロック歌唱まとめ 春学期期末テストの練習とアドバイス
- ⑮春学期復習 期末試験でスキルチェック 技術的な疑問や悩みの解消

期末試験評価方法・評価基準

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢（出席状態） 授業の理解度と成長度 発声の安定 歌唱時のボディーバランス 声帯の柔軟さ、表現コントロール 歌唱の総合的レベル（歌唱力）も考慮

出席：20% 平常点：40% 試験：40%

特記事項

授業の歌唱素材は内容に対応する課題曲を指定します

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ヴォイストレーニングⅣ
担当講師名	谷本真規
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、シンガー、俳優、作編曲家、ヴォイストレーナーとしての経験があり、著名なプロシンガーや俳優声優の育成やサポートの実績も多数。

授業内容

解剖学的観点から作りあげた独自の発声理論を基に、人数にあった形でヴォイストレーニングを行い、発声レベルから歌唱テクニックや表現までのレベルを上げていきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

声量と音域の拡張、声の質感や表現のバリエーション、多様なジャンル傾向に対応できる声の幅と歌唱感覚の確保など、声と歌唱の自由度をできるだけ広げてあげる

授業計画（1回目から7回目）

- ① 体勢感覚と喉感覚の復習 プロシンガーの映像から体の使い方を学ぶ
- ② 生声歌唱の響で歌唱感覚を覚える 横隔膜の支えと声の張り ベルティング練習
- ③ 語り、囁き、演技、ダイナミックスの作り方 ルバート、ビブラート
- ④ 生声の歌唱の感覚とマイク歌唱の感覚の違いと、感覚の揃え方を知る
- ⑤ 英語共鳴や喉の位置の特性から歌唱感覚を育てる ミックスヴォイス感覚で歌う
- ⑥ 共鳴の聴き方強化 ペンタトニックスケールとインプロビゼーション
- ⑦ 生声歌唱、マイク歌唱、双方での課題曲歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢（出席状態） 理解度 成長度 ボディーバランスの定着度 声帯の柔軟さ 発声の安定感
出席：20% 平常点：40% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 喉頭共鳴を感じコードの共振を感じる

- ⑨喉頭共鳴からコードの共振を感じ、自由にハモリフレーズを歌う
- ⑩呼吸の深さと声の深さを感じる 生声歌唱とマイク歌唱の両立
- ⑪呼吸の深さと気持ちの入り方のリンクから表現感覚を学ぶ
- ⑫Jazz シンガー方向のマイクテクニックとアフタービートのグループ
- ⑬歌唱についての疑問や自分の壁についてシェアする
- ⑭質問やできない事の改善法をシェア 期末試験のリハーサルとアドバイス
- ⑮1年間のまとめ 期末実技試験と個別アドバイス 卒業後の歌との向き合い方について

期末試験評価方法・評価基準

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢（出席状態） 授業の理解度と成長度 発声の安定 歌唱時のポディーバランス 声帯の柔軟さ、表現コントロール 歌唱の総合的レベル（歌唱力）も考慮

出席：20% 平常点：40% 試験：40%

特記事項

授業の歌唱素材は内容に対応する課題曲を指定します

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ダンス&パフォーマンスⅢ
担当講師名	青井智佳子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ダンス・ミュージカル業界での振付、演出、俳優やダンサーの指導経験を持ちます。

授業内容

歌手にとって必要な、音楽を身体で聴く、音楽に乗ると言うことの基本を習得します。ジャズダンスとストリートダンスの基礎を習得し、学生自身のパフォーマンスに自分で役立てるように学習していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

体力、柔軟性、持久力が身に付きます。また、基礎的な動きやステップを使って、ステージングを自分で組み立て、魅せられるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンスを行います。身体表現の授業における諸注意など大事なことを説明します。後半は早速実技の授業に入ります。
- ② 毎回の授業の開始時に行うウォーミングアップの説明を行います。長いので、数回に分けて実施します。また、振り付けにも入ります。
- ③ 音楽のリズムの取り方で、ダウンとアップの違いを説明します。
- ④ シャムロック、ウォークアウト、など、基礎的なステップを複数学びます。
- ⑤ 基礎的なステップと、振付課題を前回のものに加えて続けていきます。
- ⑥ 今まで行っている振付課題に振付を追加していきます。
- ⑦ 中間試験：課題振付の実技による試験を、一人ずつ行います。

中間試験評価方法・評価基準

実技の評価、授業参加態度、遅刻や欠席がないかどうかで総合的に評価します。

出席：30% 平常点：20% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 今までのおさらいと、中級のダンステクニックを学びます。ターンやアイソレーションが主な内容になります。
- ⑨ アイソレーションを利用して音楽に乗ることの説明と練習を行います。
- ⑩ 振付課題を進めます。課題曲の候補をあげ、学生の様子を見てテンポやジャンルを講師が選びます。
- ⑪ 少数人数のグループに分け、お互いを見合っ、良いところをピックアップし、各自が自分のパフォーマンスに取り入れます。
- ⑫ 振付課題の細かい所を確認し、またレクチャーしていきます。
- ⑬ 少数人数のグループに分けて、メンバーがよりパフォーマンスが改善する方法をグループで話し合って行きます。
- ⑭ 振付課題を何度も練習し、パフォーマンスとして見せることに各自が自分のダンスと向き合っ、練習して行きます。講師にも自由に質問し、改善のための努力をして行きます。
- ⑮ 期末試験：ダンスの実技の試験を一人ずつ行います。

期末試験評価方法・評価基準

実技の評価、授業参加態度、遅刻や欠席がないかどうかで総合的に評価します。

出席：30% 平常点：20% 試験：50%

特記事項

授業の参加は、体を締め付ける事のない、動ける服装と、踊りやすいスニーカーを準備してください。その他は必要に応じて、授業内でガイダンスします。

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ダンス&パフォーマンスⅣ
担当講師名	青井智佳子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ダンス・ミュージカル業界での振付、演出、俳優やダンサーの指導経験を持ちます。

授業内容

歌手にとって必要な、音楽を身体で聴く、音楽に乗ると言うことの応用を習得します。ジャズダンスとストリートダンスの中級レベルを習得し、学生自身のパフォーマンスに更に役立てるように学習していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ダンスのステップや動きを使って、更にステージングを自分で組み立て、魅せられるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンスを行います。後半は実技の授業に入ります。
- ② 振付課題を提示して行きます。
- ③ 振付課題のポイントや、特に練習と慣れが必要な部分を抜き出して部分練習します。部分練習は振付そのものの練習だけでなく、それが出来るための基礎的な練習方法もレクチャーして行きます。
- ④ グループに分かれて、お互いを見合いながら、改善して行きます。
- ⑤ 今まで行っている振付課題に振付を追加していきます。
- ⑥ 振付課題を繰り返し練習し、講師が説明するポイントを理解して、各自で練習に取り組んでいきます。
- ⑦ 中間試験：課題振付の実技による試験を、一人ずつ行います。

中間試験評価方法・評価基準

実技の評価、授業参加態度、遅刻や欠席がないかどうかで総合的に評価します。

出席：30% 平常点：20% 試験：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 今までのおさらいと、応用のダンステクニックを学びます。課題曲の候補をあげ、振り付けに入ります。
- ⑨ 課題曲の候補をあげ、学生のレベルを見てクラス毎にテンポやジャンルを講師が選びます。
- ⑩ 振付課題の設定や目的を説明しますので、それらを理解して、自分のダンスに取り組んでいきます。
- ⑪ 少数人数のグループに分け、お互いを見合っ、良いところをピックアップし、各自が自分のパフォーマンスに取り入れます。
- ⑫ 振付課題の細かい所を確認し、より表現を高める目的で説明をし、練習をします。
- ⑬ 少人数のグループに分けて、メンバーがよりパフォーマンスが改善する方法をグループで話し合って行きます。
- ⑭ 振付課題を何度も練習し、パフォーマンスとして見せることに集中して取り組んでいきます。各自が自分のダンスと向き合い改善のための努力をして行きます。
- ⑮ 期末試験：ダンスの実技の試験を一人ずつ行います。

期末試験評価方法・評価基準

実技の評価、授業参加態度、遅刻や欠席がないかどうかで総合的に評価します。
出席：30% 平常点：20% 試験：50%

特記事項

授業の参加は、体を締め付ける事のない、動ける服装と、踊りやすいスニーカーを準備してください。その他は必要に応じて、授業内でガイダンスします。

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ヴォーカル&アクト I
担当講師名	澄 淳子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は大学の演劇学専攻であり、ジャズのライブ活動、ミュージカル出演、コンサート演出、映画音楽担当の経験を持ちます

授業内容

歌詞を台詞として語ることからはじめ、歌の中にドラマを見つけ、演じていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

歌の世界を体現できるようにする。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 歌詞を台詞として語る。
- ② 歌詞を台詞として語る。
- ③ 台詞を歌にしていきます。
- ④ 台詞を歌にしていきます。
- ⑤ 台詞と歌の部分を自分なりに構成してひとつの芝居をつくる。
- ⑥ 台詞と歌の部分を自分なりに構成してひとつの芝居をつくる。
- ⑦ 台詞と歌の部分を自分なりに構成してひとつの芝居をつくる。

中間試験評価方法・評価基準

曲を選びその曲の背景となるドラマを自分で作り、そのストーリーをレポートに書く。そして歌の前のセリフを考えて提出してもらいます。どこまで歌のドラマを自分のものになっているかを評価します

出席 30% 平常点 40% 試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 自分の書いたドラマを歌に生かしていく。レポートに書いたセリフを語って歌っても

- らいます。
- ⑨ 自分の書いたドラマを歌に生かしていく。レポートに書いたセリフを語って歌ってもらいます。
 - ⑩ 台詞と共に歌を video 撮り
 - ⑪ 台詞と共に歌を video 撮り
 - ⑫ 台詞と共に歌を video 撮り。
 - ⑬ Video チェック パフォーマンスを繰り返しながらチェックしていきます。
 - ⑭ Video チェック パフォーマンスを繰り返しながらチェックしていきます。
 - ⑮ Video チェック パフォーマンスを繰り返しながらチェックしていきます。

期末試験評価方法・評価基準

Video のパフォーマンスをチェックします。自分の作ったドラマがしっかりと表現されているかどうか

出席 30% 平常点 40% 試験 30%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ヴォーカル&アクト II
担当講師名	澄 淳子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は大学の演劇学専攻であり、ジャズのライブ活動、ミュージカル出演、コンサート演出、映画音楽担当の経験を持ちます

授業内容

自分の可能性を広げていきます。自分と違うキャラクターを演じてみます。自分らしさという小さな枠を取り払う授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分と違うキャラクターを演じ、それを自分の歌に生かしていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① グループでそれぞれと逆なキャラクターについて話し合います。
- ② そのキャラクターから歌う歌を選んでいきます。
- ③ 台詞を台詞にして語ってみましょう。
- ④ 歌にしていきます。
- ⑤ グループで厳しく演出していきましょう。
- ⑥ グループで厳しく演出していきましょう。
- ⑦ グループで厳しく演出していきましょう。

中間試験評価方法・評価基準

『自分と逆のキャラクターの曲を選び、その曲を選んだ理由とその歌とキャラクターの魅力』をレポートにして提出します。自分の魅力も把握しているかも評価の対象です。

出席 30% 平常点 40% 試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 自分と逆なキャラクターの歌唱。
- ⑨ 自分と逆なキャラクターの歌唱

- ⑩ いつもの自分とメドレーにしてみましよう。
- ⑪ いつもの自分とメドレーにしてみましよう。
- ⑫ いつもの自分とメドレーにしてみましよう。
- ⑬ Video 撮り
- ⑭ Video 撮り
- ⑮ Video チェック 自分の可能性を探ります。

期末試験評価方法・評価基準

Video のパフォーマンスを評価します。自分の世界が広がったかどうかを評価します
出席 30% 平常点 40% 試験 30%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	グルーブ&ステップス I
担当講師名	mickey-T
学期	春
授業の形態	演習
攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

神崎まきの名で 1992 年 Sony records よりメジャーデビュー他、NHK「みんなのうた」に楽曲提供する等、演者、作詞家、作・編曲家としての実務経験を持つ。

授業内容

音楽の肝であるグルーブに着目。表と裏を理解し、様々なステップを通して音楽に感じられる身体を作る。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

踊ることが日常的ではない日本人の弱点を克服する方法を身に付ける。
ステージでのパフォーマンスが向上する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 生徒それぞれがどのくらい音楽に乗って身体を動かす事が出来るのかを拝見。
表と裏の理解、体現
- ② ヴォーカリストにとって必要不可欠な腹式呼吸を楽に使える為の胴回りの4つの筋肉とその働き、ピンポイントでの簡単なトレーニングの仕方を紹介
- ③ グルーヴを身体で捕らえる為の歩行と走行
- ④ グルーヴを身体で捕らえる為のダウンバウンスとアップバウンス
- ⑤ シングルステップとダブルステップで継続して乗る
- ⑥ グルーヴの仕組みと呼吸の関連性
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

100 点満点の筆記

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 1stクォーターのおさらい
- ⑨ リトミック1「ABC」リズムに乗ってステップを踏みアルファベットをはめる
- ⑩ リトミック2「焼肉定食」リズムに乗ってステップを踏みながら言葉の繋がりに注意
- ⑪ 超簡単ダンス1
- ⑫ 超簡単ダンス2
- ⑬ 簡単ダンス1
- ⑭ 簡単ダンス2
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

⑫～⑮で覚えたダンスを組み合わせで踊り歌うミス毎の減点法

特記事項

上手さではなくグルーヴ感と表現力を評

学科名	ヴォーカル学科
科目名	グローヴダンス&ステップス
担当講師名	mickey-T
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

神崎まきの名で 1992 年 Sony records よりメジャーデビュー他、NHK「みんなのうた」に楽曲提供する等、演者、作詞家、作・編曲家としての実務経験を持つ。

授業内容

音楽の肝であるグローヴに着目。表と裏を理解し、様々なステップを通して音楽に感じられる身体を作る。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

春学期に学んだ事を活かし更なるスキルアップと作品造りを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 春楽器のおさらい
- ② 背筋の重要性とトレーニングの仕方。
- ③ 背面を鍛える為の首立て伏せ
- ④ 首立て伏せとぐにゃぐにゃパキーン
- ⑤ プチダンスヴォーカル1
- ⑥ プチダンスヴォーカル2
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

プチダンスヴォーカルパフォーマンス実技

ミス毎に 100 点満点からの減点法

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 3rd クォーターのおさらい
- ⑨ ステップリーディング1

- ⑩ ステップリーディング 2
- ⑪ 期末試験課題曲振り写し 1
- ⑫ 期末試験課題曲振り写し 2
- ⑬ フォーメーションワーク 1
- ⑭ フォーメーションワーク 2
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

⑪～⑭で作った作品発表
作品全体のクオリティ、チームワーク、群舞としての美しさ、表現力を審査
その他平常点、出席率

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ヴォーカルアンサンブル I
担当講師名	瀬川忍
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は男性 5 人組のコーラスグループで活動しており、編曲を担当しています。

授業内容

アンサンブル 2 年目ということで、より多くの楽曲を知離、歌唱することで更なる読譜力、初見力を身につけていきます。またアカペラというスタイルを取り入れることで自分達だけで音楽が成り立っているという喜びとともに、声という楽器を使い和声学にも軽く触れ、楽しみながら習得できるカリキュラムを目指します

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

新しい譜面を手にした時に自分達で譜読みをし、パートを分け、ただ音を鳴らすだけでなく、皆で協力してアンサンブルを感じることができる歌を歌えるようになることを到達目標とします

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①「オリエンテーション」アンサンブルすることの重要性、効果等を音源、譜面を使ってディスカッションします
- ②「基礎力習得 1」パートを決め、音取り、譜面の見方を説明します
- ③「基礎力習得 2」自分の音ともう一つの音を耳で掴む練習をします
- ④「基礎力習得 3」音量、抑揚等のバランスを感じながら合唱します
- ⑤「コーラスワーク 1」パート毎のもつ音楽的な役割を理解しつつ歌詞の世界観に身をあずけて楽しみながら歌います
- ⑥「コーラスワーク 2」ピアノ伴奏をせずに、無伴奏（アカペラ）で歌唱します
- ⑦「発表会」グループに分かれて発表会を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席と授業態度を重視します。アンサンブルは得意不得意あるとおもうので、苦手でも欠席せずに意欲的に授業に取り組めば評価につながります。

出席 50% 平常点 25% 試験 25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧「基礎力習得 1」“世界にひとつだけの花”パートを決め、音取り等
- ⑨「基礎力習得 2」自分の音ともう一つの音を耳で掴む練習をします
- ⑩「基礎力習得 3」音量、抑揚等のバランスを感じながら合唱します
- ⑪「基礎力習得 4」ブロック毎にハーモニーが完成していく様を感じる練習をします
- ⑫「コーラスワーク 1」パート毎のもつ音楽的な役割を理解しつつ歌詞の世界観に身をあずけて楽しみながら歌います
- ⑬「コーラスワーク 2」ピアノ伴奏をせずに、無伴奏（アカペラ）で歌唱します
- ⑭「コーラスワーク 3」ハーモニーの精度を上げていく反復練習をします
- ⑮「歌唱試験」各パート一人ずつでグループを組んで歌唱します

期末試験評価方法・評価基準

自分のパートがその音楽（和声）の中でどのような役割を果たしているのか意識して歌唱しているか。グループ毎の歌唱試験なので、協調性を含めグループ単位の評価も行います。出席率、授業態度も評価の対象です
出席 50% 平常点 25% 試験 25%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ヴォーカルアンサンブルⅡ
担当講師名	瀬川忍
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は男性 5 人組のコーラスグループで活動しており、編曲を担当しています。

授業内容

秋学期は洋楽 (jazz) にもチャレンジします。難易度も少し高めて様々なジャンルのコーラスを体験し、音楽の幅がつくような授業をいたします

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

1 年間アンサンブルで学んだことが学生たちの自信になり、自分たちの音楽活動で積極的にコーラスを付け音楽に彩りを加えていくような学生に成長することを到達目標とします

授業計画 (1 回目から 7 回目)

- ① 「基礎力習得 1」 ソルフエージュ、キーの探し方、和音の理解
- ② 「jazz コーラスワーク 1」 パートを決め、音取り、譜面の見方を説明します
- ③ 「jazz コーラスワーク 2」 リズムに遅れずに自分のパートを歌えるようにします
- ④ 「jazz コーラスワーク 3」 ベースとメロディーともう 1 声で歌えるようにします
- ⑤ 「jazz コーラスワーク 4」 ブロック毎にハーモニーを感じながら歌えるようにします
- ⑥ 「jazz コーラスワーク 5」 バランスの重要性を実演しながら感じてもらいます
- ⑦ 「発表会」 グループに分かれて発表会を行います

中間試験評価方法・評価基準

他のパートにつられることなく、自分の音を正しく歌えているか。バランスの重要性を感じて調和しているかを評価します。出席率、授業態度も評価の対象です
出席 50% 平常点 25% 試験 25%

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧「基礎力習得 1」“カンントリーロード”パートを決め、音取り等
- ⑨「基礎力習得 2」グループ毎に表現したい曲想を考えて実践します
- ⑩「基礎力習得 3」ユニゾンでメロディーを歌うことで同じイメージを共有して形にする大切さを体験します
- ⑪「基礎力習得 4」ブロック毎にハーモニーが完成していく様を感じる練習をします
- ⑫「コーラスワーク 1」パート毎のもつ音楽的な役割を理解しつつ歌詞の世界観に身をあずけて楽しみながら歌います
- ⑬「コーラスワーク 2」ハーモニーの精度を上げていく反復練習をします
- ⑭「コーラスワーク 3」グループ毎に発表してお互いの良いところ、改善点をディスカッションして、よりよい表現をみつけていきます
- ⑮「歌唱試験」各パート一人ずつでグループを組んで歌唱します

期末試験評価方法・評価基準

グループごと自体に連帯感があるか。そこに集まった仲間できかに良いものを作ろうと努力してきたか。試験だけでなく授業内のグループ内での練習等も評価の対象とします 1 年かけて成長できたところも含め総合的に評価いたします。
出席 50% 平常点 25% 試験 25%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	レコーディング I
担当講師名	高松 俊
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はメジャーレコード会社 3 社で制作ディレクターとして多数のアーティストを担当するなど、音楽産業での実務経験を持ちます。

授業内容

定期的にしっかりとした形で録音していくことにより、個々のレベルにおいて自分の歌の長所、短所を客観的に確認し、練習で課題をもって対処していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

レコーディング時のヴォーカリストとしての基本的事項や DTM の知識を学びながら、一人一人に十分な時間をかけて録っていきます。録った音源は毎回生徒が持ち帰り自分の長所、欠点を認識した上で次のレコーディングに臨みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① この「レコーディング」授業全般の説明。
- ② ラフ・レコーディング 1
- ③ ラフ・レコーディング 2
- ④ ラフ・レコーディング 3
- ⑤ ラフ・レコーディング 4
- ⑥ ラフ・レコーディング 5
- ⑦ ラフ・レコーディング 6

中間試験評価方法・評価基準

課題提出、各自のテーマへの取り組み姿勢、最終作品の完成度等で総合評価
 課題 30% 平常点 40% 作品完成度 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ レコーディング 1

- ⑨ レコーディング 2
- ⑩ レコーディング 3
- ⑪ レコーディング 4
- ⑫ レコーディング 5
- ⑬ レコーディング 6
- ⑭ レコーディング 7
- ⑮ レコーディング 8

期末試験評価方法・評価基準

課題提出、各自のテーマへの取り組み姿勢、最終作品の完成度等で総合評価
課題 30% 平常点 40% 作品完成度 30%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	レコーディングⅡ
担当講師名	高松 俊
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はメジャーレコード会社 3 社で制作ディレクターとして多数のアーティストを担当するなど、音楽産業での実務経験を持ちます。

授業内容

秋学期からは、本レコーディングに近いかたちで、より丁寧に録っていきます。OK が出るまで何度も同じ場所を歌うなど、その場でプレイバックを聴いて判断することを体験し、レコーディングという作業に慣れていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

コンプや EQ、リヴァーブなどのヴォーカル用エフェクターの用途と効果を確認したり、自分の歌に自分のコーラスを重ねたりしてレコーディングに関する基本的な知識を身につけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 「レコーディング」オリエンテーション
- ② ラフ・レコーディング 1
- ③ ラフ・レコーディング 2
- ④ ラフ・レコーディング 3
- ⑤ ラフ・レコーディング 4
- ⑥ ラフ・レコーディング 5
- ⑦ ラフ・レコーディング 6

中間試験評価方法・評価基準

課題提出、各自のテーマへの取り組み姿勢、最終作品の完成度等で総合評価
 課題 30% 平常点 40% 作品完成度 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ レコーディング 1
- ⑨ レコーディング 2
- ⑩ レコーディング 3
- ⑪ レコーディング 4
- ⑫ レコーディング 5
- ⑬ レコーディング 6
- ⑭ レコーディング 7
- ⑮ レコーディング 8

期末試験評価方法・評価基準

課題提出、各自のテーマへの取り組み姿勢、最終作品の完成度等で総合評価
課題 30% 平常点 40% 作品完成度 30%

特記事項

学科名	ヴォーカル
科目名	レパートリー(R&B/JAZZ)
担当講師名	福富英明
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

セッションで R&B/JAZZ を歌っています。

授業内容

発音や発声そしてリズムを聞き取って歌う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今まで歌ったことがなかった洋楽が歌えるようになる、

授業計画（1回目から7回目）

- ① Ain't no mountain high enough 1 コーラス歌唱
- ② Ain't no mountain high enough 2 コーラス歌唱
- ③ Ain't no mountain high enough フルコーラス歌唱
- ④ Ain't no mountain high enough フルコーラス歌唱
- ⑤ Ain't no mountain high enough 歌唱テスト
- ⑥ It don't mean a thing 歌唱
- ⑦ It don't mean a thing 歌唱
- ⑧

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20%テスト 40%出席 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑨ Rock with you 1 コーラス歌唱
- ⑩ Rock with you 2 コーラス歌唱
- ⑪ Rock with you フルコーラス歌唱
- ⑫ Rock with you フルコーラス歌唱
- ⑬ Rock with you 歌唱テスト
- ⑭ Summer time 歌唱

⑮ Summer time 歌唱

⑯ Summer time 歌唱

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20%テスト 40%出席 20%

特記事項

学科名	ヴォーカル
科目名	レパートリー(R&B/JAZZ)
担当講師名	福富英明
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

セッションで R&B/JAZZ を歌っています。

授業内容

発音や発声そしてリズムを聞き取って歌う。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今まで歌ったことがなかった洋楽が歌えるようになる、

授業計画（1回目から7回目）

- ① Ordinary people 1 コーラス歌唱
- ② Ordinary people 2 コーラス歌唱
- ③ Ordinary people フルコーラス歌唱
- ④ Ordinary people フルコーラス歌唱
- ⑤ Ordinary people 歌唱テスト
- ⑥ This christmas 歌唱
- ⑦ This christmas 歌唱
- ⑧

中間試験評価方法・評価基準

平常点 20%テスト 40%出席 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑨ You are my heaven 1 コーラス歌唱
- ⑩ You are my heaven 2 コーラス歌唱
- ⑪ You are my heaven フルコーラス歌唱
- ⑫ You are my heaven フルコーラス歌唱
- ⑬ You are my heaven 歌唱テスト
- ⑭ My funny valentine 歌唱

⑮ My funny valentine 歌唱

⑯ Summer time 歌唱

期末試験評価方法・評価基準

平常点 20%テスト 40%出席 20%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	レパートリー (ROCK&POPS) I
担当講師名	市川春行
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

メジャーレーベル所属アーティスト、アイドル、声優さん達への楽曲提供、また配信による声優アイドルグループデビュープロジェクトやライブイベントプロデュース、の実務経歴があります。

授業内容

この科目では、講師の実務経歴（声優アイドルグループプロデュース、J-POP 楽曲コンペ作家）に基づき、個人個人では知りえなかったロック、ポップスの名曲と出会い、歌うことにより、ヴォーカリスト、ミュージシャンとしての幅を広げます。またレパートリーを増やすことに繋がります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲のテイストを自分なりに表現出来るようになること。歌詞の内容を理解した上で、気持ちを込めてパフォーマンス出来るようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①グループミーティング #1、次回歌唱曲の選定を皆で話し合います。（同性歌手、歌唱曲を自身で選曲）
- ②初回歌唱 #1、同性歌手の歌唱楽曲を練習します。
- ③仕上げ歌唱 #1、前回授業を踏まえ、同性歌手の歌唱楽曲を完成させます。
- ④グループミーティング #2、次回歌唱曲の選定を皆で話し合います。（異性歌手、歌唱曲を自身で選曲）
- ⑤初回歌唱 #2、異性歌手の歌唱楽曲を練習します。
- ⑥仕上げ歌唱 #2、前回授業を踏まえ、異性歌手の歌唱楽曲を完成させます。
- ⑦テスト、1Q で歌った曲より任意でピックアップし、歌唱します。

中間試験評価方法・評価基準

実際の歌唱はもちろんのこと、選曲会議時のプロデュース能力も重視します。試験 30%、平常点 40%、出席状況 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧グループミーティング #3、次回歌唱曲の選定を皆で話し合います。（英語バラード曲を自身で選曲）
- ⑨初回歌唱 #3、Key 合わせ含め、英語バラード曲を練習します。
- ⑩仕上げ歌唱 #3、前回授業を踏まえ、英語バラード曲を完成させます。
- ⑪グループミーティング #4、次回歌唱曲の選定を皆で話し合います。（英語 Rock 又は Dance 曲を自身で選曲）
- ⑫初回歌唱 #4、英語 Rock 又は Dance 曲を練習します。
- ⑬仕上げ歌唱 #4、前回授業を踏まえ、英語 Rock 又は Dance 曲を完成させます。
- ⑭2Q 曲再確認、2Q で歌った曲をおさらい
- ⑮テスト、2Q で歌った曲より任意でピックアップし、歌唱します。

期末試験評価方法・評価基準

実際の歌唱はもちろんのこと、選曲会議時のプロデュース能力も重視します。試験 30%、平常点 40%、出席状況 30%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	レパートリー (ROCK&POPS)Ⅱ
担当講師名	市川春行
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

メジャーレーベル所属アーティスト、アイドル、声優さん達への楽曲提供、また配信による声優アイドルグループデビュープロジェクトやライブイベントプロデュース、の実務経験があります。

授業内容

春学期を踏まえ、さらに個人個人では選ばなかったであろう、ミスマッチな楽曲にもチャレンジすることにより、ヴォーカリスト、ミュージシャンとしての幅をいっそう広げ、新しい可能性を探します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

いわゆる食わず嫌いだった曲にもアプローチすることによって自分の可能性をさらに広げること。またハモリ等複数 Vocal の楽しさも実感出来るようになること。

授業計画（1回目から7回目）

- ①チームミーティング#5、次回歌唱曲の選定を皆で話し合います。（ハモリのあるデュエット曲をチームで選曲）
- ②初回歌唱#5、ハモリのあるデュエット曲を練習します。
- ③仕上げ歌唱#5、前回授業を踏まえ、ハモリのあるデュエット曲を完成させます。
- ④チームミーティング#6、次回歌唱曲の選定を皆で話し合います。（複数アイドル又はアニソン曲をチームで選曲）
- ⑤初回歌唱#6、複数アイドル又はアニソン曲を練習します。
- ⑥仕上げ歌唱#6、前回授業を踏まえ、複数アイドル又はアニソン曲を完成させます。
- ⑦テスト、3Qで歌った曲より任意でピックアップし歌唱

中間試験評価方法・評価基準

実際の歌唱はもちろんのこと、選曲会議時のプロデュース能力も重視します。試験 30%、平常点 40%、出席状況 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧チームミーティング#7、次回歌唱曲を皆で話し合います。（30年以上前のRock、Pops曲をチームで選曲）
- ⑨初回歌唱#7、30年以上前のRock、Pops曲を練習します。
- ⑩仕上げ歌唱#7、前回授業を踏まえ、30年以上前のRock、Pops曲を完成させます。
- ⑪チームミーティング#8、次回歌唱曲の選定を皆で話し合います。（講師制作曲をチームで選曲）
- ⑫初回歌唱#8、講師制作曲を練習します。
- ⑬仕上げ歌唱#8、前回授業を踏まえ、講師制作曲を完成させます。
- ⑭4Q曲再確認、4Qで歌った曲をおさらいします。
- ⑮テスト、4Qで歌った曲より任意でピックアップし歌唱します。

期末試験評価方法・評価基準

実際の歌唱はもちろんのこと、選曲会議時のプロデュース能力も重視します。試験 30%、平常点 40%、出席状況 30%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	クラシックⅡ
担当講師名	安村今日子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

声楽・合唱、オーケストラ、吹奏楽の経験をもつ講師が担当します。
舞台出演・演出経験多数あり。

授業内容

日本の音楽史も取り上げ、どのように発展を遂げ、現在に至るかを学びます。また、総合芸術として、バレエ、オペラも学習していきます。学期の最後にオペラのダイジェストもしくは合唱曲を発表します。実際に自分たちで演出を考え出演します。（合唱かオペラの選択は、受講学生数やレベルで決定します。）

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽の成り立ちや各時代での作品の特徴、時代背景を知り、知識をより深いものにする。
有名な楽曲を原語で歌唱することで、歴史や国の文化を知ることができる。
基礎的なテクニックを学び、専攻の演奏に役立たせることができる。
独唱曲のみならず、合唱やオペラ作品によるアンサンブル曲を多く扱うので、アンサンブル力が付く。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ロマン派 シューベルト②シューマンの歌曲。ピアノ学科伴奏法授業への参加準備
- ②ロマン派 ショパン、リスト 特徴的なリズムを知る
- ③ロマン派 チャイコフスキー バレエ音楽を知る
- ④国民楽派 ムソルグスキー、スメタナ
- ⑤ロマン派と近代音楽 サン・サーンス 動物の謝肉祭
- ⑥印象主義 ドビュッシ、ラヴェル
- ⑦ピアノ学科伴奏法授業に歌唱で参加①

中間試験評価方法・評価基準

ドイツリート歌唱
出席：30% 平常点：40% 実技：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧日本での西洋音楽の始まり① 砂山（山田耕筰/中山晋平）を演奏
日本固有の音階で作曲してみる
- ⑨日本での西洋音楽の始まり② 中田章・滝廉太郎・山田耕筰等の邦人作曲家作品
- ⑩日本での西洋音楽の始まり③ 明治期に作曲された合唱曲を演奏
- ⑪ピアノ学科伴奏法授業に歌唱で参加②
- ⑫合唱曲もしくはオペラ（オペレッタ）の練習
- ⑬合唱曲もしくはオペラ（オペレッタ）の練習
- ⑭合唱曲もしくはオペラ（オペレッタ）の練習
- ⑮期末試験：筆記試験及び演奏

期末試験評価方法・評価基準

作曲家や時代背景、技法等の筆記試験。

⑫～⑭で練習した曲を演奏。

1年間で学んだ楽曲の中から任意の独唱曲1曲を演奏。

出席：30% 平常点：40% 試験：30%

特記事項

休んだ講義の基礎内容（音取り・歌詞の読み方）のフォローは講義時間内には一切しません。

授業内ひとりで歌って頂くこともあります。

協調を乱していると判断された者は、失格とします。

学科名	ヴォーカル学科
科目名	レパートリー（クラシック）Ⅰ
担当講師名	安村今日子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

声楽・合唱、オーケストラ、吹奏楽の経験をもつ講師が担当します。

授業内容

音楽人として、ヴォーカリストとして活動する上で知っていて役に立つ・知っていて得をする西洋音楽の歴史・クラシック楽曲を演奏しながら学んでいきます。歌曲で実際に演奏するのは原語です。また声楽作品以外の作品にも触れて頂き、幅広い知識を得ます。クラシック音楽を難しいものと捉えるのではなく、楽しく基礎を身につけていきましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽の成り立ちや各時代での作品の特徴、時代背景を知り、知識をより深いものにする。有名な楽曲を原語で歌唱することで、歴史や国の文化を知ることができる。基礎的なテクニックを学び、専攻の演奏に役立たせることができる。独唱曲のみならず、合唱によるアンサンブル曲を多く扱うので、アンサンブル力が付く。

授業計画（1回目から7回目）

- ①音楽の成り立ちを知ろう① モノフォニー 昔の記譜法
- ②音楽の成り立ちを知ろう② ポリフォニー カノン オルガヌム グレゴリオ聖歌
- ③カノン進行を知ろう 通奏低音 カノン進行で曲を作る
- ④バロック期の名曲① ヘンデル この時代の声楽の技法を知る
- ⑤バロック期の名曲② バッハ・ヴィヴァルディ カンタータ・管弦楽曲
- ⑥アヴェ・マリア 様々な時代のアヴェ・マリアを演奏する
- ⑦歌舞伎を知ろう 勸進帳より【寄せの合方】を唱歌

中間試験評価方法・評価基準

アンサンブルを伴う授業なので、積極性を重視します。

出席：30% 平常点：70%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧古典派の作曲家 モーツァルト① Ave Verum Corpus
- ⑨古典派の作曲家 モーツァルト② 弦楽四重奏曲
- ⑩古典派の作曲家 モーツァルト③ オペラアリア、アンサンブル曲
- ⑪古典派の作曲家 ハイドン・ベートーベン① 管弦楽曲
- ⑫古典派の作曲家 ベートーベン② 交響曲第5番を指揮、交響曲第9番4楽章を演奏
- ⑬ロマン派の作曲家 シューベルト① ドイツリート（通作歌曲・有節歌曲形式）
- ⑭春学期で学んだ曲の中から任意のソロ曲1曲を選び復習
- ⑮期末試験：筆記試験及び⑭で復習した曲の演奏

期末試験評価方法・評価基準

作曲家や時代背景、技法等の筆記試験。
アンサンブル曲を演奏。
春学期で学んだ曲の中から任意の1曲を演奏。
出席：30% 平常点：40% 試験：30%

特記事項

休んだ講義の基礎内容（音取り・歌詞の読み方）のフォローは講義時間内には一切しません。
授業内ひとりで歌って頂くこともあります。
協調を乱していると判断された者は、失格とします。

学科名	ヴォーカル学科
科目名	レパートリー（ミュージカル）Ⅰ
担当講師名	松村湧太
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、言語学・音声学・ヴォイストレーニングを組み合わせ、シンプルかつ理論的に声をトレーニング出来、音楽業界、ヴォイストレーナー業界からも高く評価されている「ヴォイトレ・マスター®メソッド」の認定ヴォーカルコーチとして、大手商業ミュージカル主演俳優、劇団四季俳優、武道館出演アーティストなど、数多くの指導実績があります。

授業内容

毎回必ず、発声練習で声帯のバランスを整え、声域を拡大した上で、様々なタイプのミュージカルナンバーに取り組んで頂きます。『その役柄ではどんな声が必要か?』を考え、ただ安定して歌えるだけではなく、その役の声として歌える様に声を作ります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ロングランにも耐えうる発声技術の土台を整えつつ、その楽曲が『どんな演目で、どういうシーンで、どういう心情や目的を持って歌うのか?』といった事まで掘り下げ、その役として歌える表現力も身につけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ミュージカルで求められる声 ミュージカルというジャンルで歌手が必要なスキルについて知り、実際に発声練習を行います。
- ②発声～課題曲①-① 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、「コーラスライン」より『愛した日々に悔いはない』に取り組めます。
- ③発声～課題曲①-② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、前回の課題曲を更にヴォイストレーニングも交えながら、更に観客に伝わる歌にレベルアップします。
- ④発声～課題曲②-① 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、ディズニーミュージカルから、男性は「アラジン」より『自慢の息子』女性は「リトルマーメイド」より『Part of your world』に取り組めます。
- ⑤発声～課題曲②-② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、前回の課題曲を、よりその役柄に合う歌声や表現方法にブラッシュアップします。
- ⑥発声～試験曲 授業で歌った課題曲どちらかを選び、その曲がどんな演目のどんなシーンで、どんな役がどういう想いで歌う曲なのか?といった事も調べた上で、更に観客の心を揺さぶる歌に仕上げます。

⑦中間試験 一人ずつ、ご自身で決めた曲を披露して頂きます。

中間試験評価方法・評価基準

その役柄に求められる声で歌えているか、そして演目や役柄、シーンについて理解した上で歌えているか？を評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧発声～課題曲③-① 前期とはまた全く違う声が必要な演目「ジキルとハイド」より、男性は『時が来た』女性は『あんなひとが』に取り組みます。
- ⑨発声～課題曲③-② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、引き続き前回の課題曲をヴォイストレーニングを交えて、役柄や心情に合う歌い方にブラッシュアップします。
- ⑩発声～課題曲④-① クラシカルな声の要素が必要な「オペラ座の怪人」より、男性は『ミュージック・オブ・ザ・ナイト』女性は『墓場にて』に取り組みます。
- ⑪発声～課題曲④-② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、引き続き前回の課題曲をヴォイストレーニングを交えて、役柄や心情に合う歌い方にブラッシュアップします。
- ⑫発声～試験曲① それぞれご自身で、色々なミュージカルナンバーについて調べて頂き、自分の強みに合う、取り組んでみたい曲を試験曲として持ってきて下さい。
- ⑬発声～試験曲② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、試験曲をヴォイストレーニングを交え、その役柄ならではの声、表現で歌える様にします。
- ⑭発声～試験曲③ 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、試験曲を更に精度を高めます。どんな演目、どんな役柄、どんなシーンなのか？を理解して歌います。
- ⑮期末試験 お一人ずつ、選んだ自由曲を歌って頂きます。

期末試験評価方法・評価基準

その役柄に求められる声で歌えているか、そして演目や役柄、シーンについて理解した上で歌えているか？更に、声のバランスを崩す事なく安定して歌えているか？発声技術も評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	レパートリー（ミュージカル）Ⅱ
担当講師名	松村湧太
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、言語学・音声学・ヴォイストレーニングを組み合わせ、シンプルかつ理論的に声をトレーニング出来、音楽業界、ヴォイストレーナー業界からも高く評価されている「ヴォイトレ・マスター®メソッド」の認定ヴォーカルコーチとして、大手商業ミュージカル主演俳優、劇団四季俳優、武道館出演アーティストなど、数多くの指導実績があります。

授業内容

デュエットやコーラスにも取りみ、プリンシパルとしてソロで歌う時と、アンサンブルとしてコーラスを歌う時の、声の作り方の違いを学びます。最後は、それぞれのヴォーカリストとしての強みを活かした、ミュージカルナンバーの18番を1つ仕上げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ミュージカルは、演目によって、クラシック、ロック、ジャズ、R & B、ポップス等、様々なジャンルの音楽を歌う必要があり、尚且つ演じる役柄としての芝居の中で歌う必要があり、総合力が一番要される場です。様々なテイストの曲に取り組み、自分の歌手としての強みも理解し、どんな世界でも通用するヴォーカリストとしての総合力を高めます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①発声～デュエット課題① 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、ディズニーミュージカルのデュエット「アラジン」より『ホールニューワールド』に取り組みます。
- ②発声～デュエット課題② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、ジャズテイストのデュエット「ミーアンドマイガール」より『ミーアンドマイガール』に取り組みます。
- ③発声～デュエット課題③ 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、ロックテイストのデュエット「アイダ」より『迷いつつ』に取り組みます。
- ④発声～デュエット課題④ 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、グランドミュージカルのデュエット「ミス・サイゴン」より『世界が終わる夜のよう』に取り組みます。
- ⑤発声～試験曲① 試験のペアを決め、授業の中で取り組んだデュエットナンバーの中から1曲選び、ブラッシュアップします。
- ⑥発声～試験曲② 引き続き試験曲の精度を高めます。声の安定はもちろん、楽曲の背景を理解した上で、相手と歌の中で感情の交流が成り立つ様に仕上げます。

⑦中間試験 ペア 1 組ずつ、試験曲を披露して頂きます。

中間試験評価方法・評価基準

今回はソロではなくデュエットです。その役としての声や表現で歌えている事はもちろん、相手の声や感情にも意識を向け、歌の中でのコミュニケーションが取れているか？も評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

⑧発声～コーラス課題①-① 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、「RENT」より『Seasons of love』に取り組みます。音程感やリズムが全て溶け合うためには、それぞれのパートが何に気をつけるか？学びます。

⑨発声～コーラス課題①-② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、前回の課題曲に取り組みます。周りの声も聴き合いつつも、更に観客に大きなエネルギーが伝わるコーラスになる様ブラッシュアップします。

⑩発声～コーラス課題②-① 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、「レ・ミゼラブル」より『ワン・デイ・モア』に取り組みます。様々な役が登場する複雑な構成の曲です。演目や楽曲の背景を調べてキャストを決めましょう。

⑪発声～コーラス課題②-② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、引き続き前回の曲に取り組みます。それぞれの役に最適な声を作りながらも、コーラスの大ナンバーとして壮大に仕上げます。

⑫発声～自由曲① ご自身が将来、どういう活動をしていきたいか？ご自身の歌手としての強み、得意分野は何か？を説明して頂いた上で、それに最適なミュージカル曲を一つ選んで、試験に向けて取り組みます。

⑬発声～自由曲② 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、試験曲をブラッシュアップします。その曲、役に最も合う声に仕上げていきます。

⑭発声～自由曲③ 発声練習で声帯のバランスを整えた上で、試験曲を更に自由な表現で歌える様に仕上げていきます。お互いに感想、意見も出し合しましょう。

⑮期末試験 お一人お一人、自由曲を披露して頂きます。

期末試験評価方法・評価基準

ヴォイストレーニング面、表現面において、これまで学んだ事を活かして「もっと聞きたい」と思わせる力のあるパフォーマンスだったか？そして歌手としての自分の強み、得意分野を理解し、そこを最大限活かした選曲、表現だったか？を評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	レパトリー（キャラクターソング）Ⅰ
担当講師名	沼田梨花
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は海外アニメの歌唱部分の吹き替え、声優向け歌唱見本などのレコーディング、アニソンシンガーのバックコーラスなどの経験があります。

授業内容

体、顔、喉周りのストレッチ
 発声練習、技術のレクチャー、実践
 課題曲歌唱

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アニメソング、キャラクターソングを通して歌唱技術の向上を目指します。
 基礎トレーニングも必ず行い様々な現場に対応出来るようにします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①授業内容の説明、インタビュー 課題曲設定
- ②基礎練習 課題曲1 コーラス目を進める
- ③基礎練習 課題曲2 コーラス進める
- ④基礎練習 フルコーラス歌唱
- ⑤基礎練習 課題曲の歌い方、フレージングを真似て、曲のクオリティを上げる
- ⑥課題曲の歌い方、フレージングを真似て、曲のクオリティを上げる 曲を通す
- ⑦課題曲歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

課題曲をフルコーラスで歌唱
 授業でやったことがきちんとできているか。ステージとして素晴らしいものになっているか。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧基礎練習 滑舌トレーニング 課題曲設定
- ⑨基礎練習 滑舌トレーニング 課題曲1 コーラス目を進める
- ⑩基礎練習 滑舌トレーニング 課題曲2 コーラス目を進める
- ⑪基礎練習 滑舌トレーニング フルコーラス歌唱
- ⑫基礎練習 課題曲の歌い方、フレージングを真似て、曲のクオリティを上げる
- ⑬課題曲の歌い方、フレージングを真似て、曲のクオリティを上げる 曲を通す
- ⑭試験同様の形で曲を歌唱、アドバイス
- ⑮課題曲歌唱試験

期末試験評価方法・評価基準

課題曲をフルコーラスで歌唱

授業でやったことがきちんとできているか。ステージとして素晴らしいものになっているか。

平常点 50% 試験 50%

特記事項

課題曲の音源は、Dropbox でダウンロードしてもらうので使えるようにしておいてください。

必ずメールで配布されたものを使用するようにしてください。

学科名	ヴォーカル学科
科目名	レパートリー（キャラクターソング）
担当講師名	沼田梨花
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は海外アニメの歌唱部分の吹き替え、声優向け歌唱見本などのレコーディング、アニソンシンガーのバックコーラスなどの経験があります。

授業内容

体、顔、喉周りのストレッチ
 発声練習、技術のレクチャー、実践
 課題曲歌唱

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アニメソング、キャラクターソングを通して歌唱技術の向上を目指します。
 基礎トレーニングも必ず行い様々な現場に対応出来るようにします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①春学期の曲を復習 課題曲設定
- ②様々なテクニックの紹介 チャレンジ
- ③基礎練習 テクニックの練習 フレーズをコピーしながら 課題曲1 コーラス目を進める
- ④基礎練習 テクニックの練習 フレーズをコピーしながら 課題曲2 コーラス目を進める
- ⑤基礎練習 テクニックの練習 フレーズをコピーしながら 課題曲2 コーラス目以降を進める
- ⑥試験同様の形で曲を歌唱、アドバイス
- ⑦課題曲歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

課題曲をフルコーラスで歌唱
 授業でやったことがきちんとできているか。ステージとして素晴らしいものになっているか。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧第1クォーターの曲を復習 課題曲設定
- ⑨基礎練習 リズトレと共に難易度の高い早口言葉の練習 課題曲を進める
- ⑩基礎練習 テクニックの練習 フレーズをコピーしながら 課題曲1 コーラス目を進める
- ⑪基礎練習 テクニックの練習 フレーズをコピーしながら 課題曲2 コーラス目を進める
- ⑫基礎練習 テクニックの練習 フレーズをコピーしながら 課題曲2 コーラス目以降を進める
- ⑬テストに向け細部をチェック
- ⑭試験同様の形で曲を歌唱、アドバイス
- ⑮課題曲歌唱試験

期末試験評価方法・評価基準

課題曲をフルコーラスで歌唱

授業でやったことがきちんとできているか。ステージとして素晴らしいものになっているか。

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ヴォーカルユニットアンサンブルⅠ
担当講師名	藤原美穂
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

メジャーレーベルで多数の作品を発表、また多方面アーティストのサポートを務めてきた現役歌手の講師による実践的なテクニックを、あらゆる方面から見つめます。自分の今まで歌っていた声以外の声を意識できるようにします。オーディション対策、ステージに立つ者としての自覚を促します。譜面を読み、歌う、調音、スケール練習を毎回やって行きます。身につけるべき、最低限の音感、礼儀、常識を、実質的に学びます。

授業内容

ハノン 1 番～階名歌唱を毎回します。コールユーブンゲン 4 分の 4 : C 調を、毎回読譜歌唱します。

Key=C の課題曲のコーラス譜面を読みます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

進行を正確に読み、バンドやオケとの連携を理解します。コールユーブンゲンで読譜に慣れるように反復練習し、インターバルを身につけて行きます。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① 自己紹介・アンケートへの書き込み・質疑応答します。出席時には、1 分以内の MC を毎回やってもらいます。
- ② 一人ずつ好きな曲を歌唱し、音域確認し、パートの希望を聴きます。
- ③ 第 1 課題曲を視聴し、パートを確認します。
- ④ コーラスにおける呼吸を解説します。身体のしくみを理解し、声と息のバランスについて考えながら声を出して行きます。
- ⑤ ブレンドをよくするため発声習得します。
- ⑥ 実技試験リハーサルを各クォーター行います。マイクの使い方、見せ方、動きなど、クラス全員でディスカッションします。
- ⑦ 1 クォーター試験。課題曲歌唱とその時のハノン歌唱をします。

中間試験評価方法・評価基準

まずは、かんたんな 1 曲を全員で、最低限、音程のみ仕上げます。毎回、何が不足しているかを考え、コーラスにおける大切な個の役割を学びます。チームワークありきなため、まずは出席率 50%、平常点 30%、試験実技 20%。

授業計画（8 回目から 15 回目）

- ⑧ 実技試験を一人ずつ反省し、ディスカッション。次への課題を確認しあいます。
- ⑨ 課題曲-2 の決定をします。聴音、3 和音の聞き分けを毎回のトレーニングに加えます。移動ドについて理解します。
- ⑩ コーラス譜を書く準備をします。音符カードでリズムの書き方を訓練します。
- ⑪ リズムの書き方、伝達手段としての楽譜の認識をします。
- ⑫ オーディションを受けるにあたってなど、夏休み前の心構えを含め、社会を意識してもらいます。
- ⑬ 立ち方、マイクスタンドの使い方、動き方など、課題曲歌唱も見せ方を学びます。
- ⑭ 実技試験リハーサルを行います。マイクの使い方、見せ方、動きなど、クラス全員でディスカッションします。
- ⑮ 2クオーター試験。課題曲実演します。

期末試験評価方法・評価基準

子音や呼吸を合わせることを、どこまで理解できるか。オケとの兼ね合いで、大切なアタックや音を切るタイミングを、合わせる力が備わるかを評価します。また、8 分音符までの簡単な課題曲で、コーラス譜を完成して提出させます。出席率 40%、平常点 30%、試験 30%。

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ヴォーカルユニットアンサンブルⅡ
担当講師名	藤原美穂
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

幾多の俳優・声優にもボイストレーニングを行ってきた講師により、演じる声の使い方、身体の使い方を、さらに学んでゆきます。3声和音、字ハモ以外にどんなバリエーションがあるか、学びます。楽曲の中でのコーラスの役割に興味を深く持ち始めてもらえるようにします。

授業内容

自身でコーラスアレンジができるようになるまで、各々の個性に合った楽曲で、聴き取り、実演できるよう促して行きます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

移動ドでハーモニーを捉えられるのが目標です。オリジナルコーラスアレンジをして、実演した動画を作成し、クラウドにアップするところまでを最後の試験とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 12音階をピアノで弾いてみます。3和音聴音 スケールを認識します。
- ② Circle of keys を完全に理解し、移調の仕方を習得します。
- ③ 第3課題曲を決定し、聴き取りを始めます。
- ④ バンド譜面の情報・コーラスの情報についての重要性を学びます。
- ⑤ いろいろなリズムの合わせての身体の使い方をよくするための発声を習得します。
- ⑥ 実技試験リハーサルを行います。クラス全員でディスカッションします。
- ⑦ 3クォーター試験。課題曲歌唱と撮影を行います。

中間試験評価方法・評価基準

合唱とは違う、POPSの現場における、あらゆるテクニックを理解してもらえるようにします。また、英語の歌詞を交えての課題曲を与え、発音もていねいに憶えて行きます。ステージで表現する自覚を養います。作品を、1作以上、動画撮影（新入生勧誘 DVD 用）出席率 30%、平常点 30%、試験 40%。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 実技試験を一人ずつ反省し、ディスカッション。実技試験について語り、オーディション対策について考え、課題を確認しあいます。HP制作についても説明し、最後授業までに仕上げて行きます。
- ⑨ 最後の課題曲決定について話します。オリジナルアレンジについて考察します。
- ⑩ 譜面を起こす、録音するなど、メンバーへの伝達を準備します。
- ⑪ アレンジをします。メンバーを決定し、伝え方を決めます。
- ⑫ アレンジを進めます。時間内に、メンバーに指示します。立ち方、マイクスタンドの使い方、動き方なども合わせて行きます。
- ⑬ 課題曲実演し、撮影します。
- ⑭ 課題曲実演し、撮影します。撮影終了したものから、My Cloudにアップして行きます。
- ⑮ 最後の実技試験リハーサルを行います。クラス全員でディスカッションします。

期末試験評価方法・評価基準

実践的な力が養われているかを評価します。他メンバーをよく聴いて自分の役割を認識できる力も評価します。オリジナル曲、もしくはコーラスなし既存曲をアレンジ実演し、自分の資料作りを最後の課題とします。他人にアプローチできる動画とプロフィールをクラウドにアップするところまでを卒業試験とする。出席率 30%、平常点 30%、試験 40%。

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	バンドアンサンブル I
担当講師名	永田基
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はバンドのギターヴォーカルとしてポニーキャニオンよりメジャーデビュー、人気テレビアニメ主題歌の歌唱、全国ワンマンライブツアー等の実務経験を持ちます。

授業内容

学生一人一人がバンドマスターとなり、生バンドで演奏しながら自分の歌をより素晴らしく聞かせる技術を学びます。歌いたい曲の譜面と音源を持参してください。オリジナル曲大歓迎！

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

バンドマスターを経験して、歌、パフォーマンス、コミュニケーション等、ヴォーカリストとしての魅力を磨いていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① バンドマスターに必要な事（楽曲の構成、リードシートの準備、楽器の役割等）を学びます。
- ② バンドメンバーとのコミュニケーション方法を学びます。
- ③ 発音の理解を深め、バンドサウンドに埋もれない歌唱を学びます。
- ④ ダイナミクスの理解を深め、楽曲の構成に合った歌唱を学びます。
- ⑤ 表情の使いかの理解を深め、表現力を学びます。
- ⑥ 中間試験で披露する楽曲のリハーサルを行い、歌い手、聞き手（学生と講師）、バンドメンバーそれぞれの目線で改善点を話し合います。
- ⑦ 中間試験。練習してきた楽曲を披露してもらいます。

中間試験評価方法・評価基準

試験：70% 平常点：30% 欠席点として1回欠席につき2点減点します。（公欠・病欠を除く）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ライブハウス出演する際に知っておく事、準備しておく事やマナーを学びます。
- ⑨ ステージングについて理解を深め、様々なパフォーマンス方法を学びます。
- ⑩ MC の理解を深め、楽曲を引き立てる方法を学びます。
- ⑪ 各セクション（ギター、ベース、ドラム、キーボード）の理解を深め、楽曲に活かす方法を学びます。
- ⑫ バンドリハーサルやライブ当日に行うリハーサルの効率的な方法を学びます。
- ⑬ 期末試験で披露する楽曲のリハーサルを行い、歌い手、聞き手（学生と講師）、バンドメンバーそれぞれの目線で改善点を話し合います。
- ⑭ 期末試験で披露する楽曲のリハーサルを行い、歌い手、聞き手（学生と講師）、バンドメンバーそれぞれの目線で改善点を話し合います。
- ⑮ 期末試験。練習してきた楽曲を披露してもらいます。

期末試験評価方法・評価基準

試験：60% 平常点：40% 欠席点として1回欠席につき2点減点します。（公欠・病欠を除く）

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	バンドアンサンブルⅡ
担当講師名	永田基
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はバンドのギターヴォーカルとしてポニーキャニオンよりメジャーデビュー、人気テレビアニメ主題歌の歌唱や全国ワンマンライブツアー等の実務経験を持ちます。

授業内容

学生一人一人がバンドマスターとなり、生バンドと一緒に演奏しながら自分の歌をより素晴らしく聞かせる技術を学びます。歌いたい曲の譜面と音源を持参してください。オリジナル曲大歓迎！

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

バンドマスターとして経験を積み、歌、パフォーマンス、コミュニケーション等、ヴォーカリストとしての魅力を磨いていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① イントロ、アウトロ、インターラード（ソロ）の理解を深め、バンドに指示が出せる様にします。
- ② 歌詞を分析し、伝える力を身に付けます。
- ③ 歌詞を分析し、言葉でリズムを作る方法を学びます。
- ④ 各セクション（ギター、ベース、ドラム、キーボード）の演奏指示を学びます。
- ⑤ 各セクション（ギター、ベース、ドラム、キーボード）の音色指示を学びます。
- ⑥ 自己分析とセルフプロデュースの方法を学びます。
- ⑦ 中間試験。練習してきた楽曲を披露してもらいます。

中間試験評価方法・評価基準

試験：60% 平常点：40% 欠席点として1回欠席につき2点減点します。（公欠・病欠を除く）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 演奏や機材トラブルに対応する技術を学びます。
- ⑨ 3～4組の対バンライブを想定して演奏します。
- ⑩ ワンマンライブを想定して演奏します
- ⑪ カフェなど小さいステージを想定して演奏します
- ⑫ 期末試験で披露する楽曲のリハーサルを行い、歌い手、聞き手（学生と講師）、バンドメンバーそれぞれの目線で改善点を話し合います
- ⑬ 期末試験で披露する楽曲のリハーサルを行い、歌い手、聞き手（学生と講師）、バンドメンバーそれぞれの目線で改善点を話し合います
- ⑭ 期末試験で披露する楽曲のリハーサルを行い、歌い手、聞き手（学生と講師）、バンドメンバーそれぞれの目線で改善点を話し合います。
- ⑮ 期末試験。練習してきた楽曲を披露してもらいます。

期末試験評価方法・評価基準

試験：70% 平常点：30% 欠席点として1回欠席につき2点減点します。（公欠・病欠を除く）

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	シンガーソングライター I
担当講師名	小池 道昭
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

メジャーレコード会社でのアーティストとしての活動など、音楽産業での実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、いろんな音楽のしくみを知る事で本当に好きな音楽を見つけ、自分にしかないオリジナル曲を作れるようにしていきたいと思います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

今まで知らなかった知識をしっかりと身につける為には、受け身ではなく主体的に挑んで行く気持ちが大事です。曲作りの作業の中で自分が主導で何かを作り上げていくことを学んでいきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①授業内容を説明し自己紹介をしてもらった上で、個々の経験や何に興味を持っているかを把握します。
- ②作詞・作曲・編曲・録音等、楽曲が完成していくまでの流れを解説します。
- ③世に出ている曲のほとんどはダイアトニックコード中心で出来ていることを説明し、その重要性を理解していきます。
- ④ノンダイアトニックコードの種類や使い方を知り、個性的な曲作りにつながるノンダイアトニックコードについて学んでいきます
- ⑤カノン進行や枯葉進行など代表的なコード進行を覚えて曲作りの参考にしていきます。
- ⑥ただの鼻歌でもコードが付くとちゃんとした曲になる事を実感してもらい、作曲のハードルを下げていきます。
- ⑦それぞれの出来る範囲で歌詞とメロディーを作り、提出します。（テスト）

中間試験評価方法・評価基準

出席及び取り組む姿勢を重視します。
出席 30% 平常点 30% 試験 30% その他 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧耳で曲のコードを取れるようになると、その曲のエッセンスを把握しやすくなり、個性のある曲作りにつながっていきます。
- ⑨実際に好きな曲を持ち寄って、耳コピの仕方を覚えていきます。
- ⑩基本的なコードの付け方を学び、作ったメロディーにコードを付けてみます。
- ⑪四和音を左手でルート、右手でトライアドの形で覚え、実際演奏しながら覚えていきます
- ⑫テンションノートの意味や使い方を説明し、テンションによってかなり雰囲気が変わり、独特の世界観を作れることを実感します。
- ⑬心が動いた瞬間をしっかりと記録する習慣をつける、それが作詞の第一歩です。
- ⑭オリジナル、カバーを問わずに弾き語りにトライします。弾き語りで曲を自分のものに出来ると曲作りにも良い効果が表れてきます。
- ⑮今までの成果を出来るだけ弾き語りで歌唱、発表します。（テスト）

期末試験評価方法・評価基準

出席及び取り組む姿勢を重視します。
出席 30% 平常点 30% 試験 30% その他 10%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	シンガーソングライターⅡ
担当講師名	小池 道昭
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

メジャーレコード会社でのアーティストとしての活動など、音楽産業での実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、いろんな音楽に触れてより深く理解していく事が、自分のオリジナリティーの向上につながる事を伝え、自分の理想の音を表現するための譜面の書き方も伝えていきたいと思います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽を作り上げていく作業は、楽しい部分もありますが、想像以上に根気が必要な作業でもあります。しっかりと最後まで作り上げる力を身につけて行って欲しいと思います。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 感情が集約するサビ、A,Bメロの特徴を理解します。
- ② ジャンルによってコードやリズムの違いがあることをしっかり理解し、その違いを把握します。
- ③ チャーチモード、ペンタトニック e t c. いろいろなスケールを覚えて、個性的なメロディーにつなげていきます。
- ④ 歴史、コード進行、ブルーノートなどを通じてジャズやブルースの特徴を知り、独特のフィーリングを表現できるようにしていきます。
- ⑤ メロディー譜の書き方を覚え、歌のリズムを理解して歌うことの大切さを学びます。
- ⑥ 譜面を書いてみて分かることもたくさんあります。オリジナル曲又はコピー曲の譜面制作にトライします。
- ⑦ 歌唱とともに、メロディー譜を提出します。(テスト)

中間試験評価方法・評価基準

出席及び取り組む姿勢、そろそろ成果も重視します。
出席 30% 平常点 30% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 編曲の基本となるベースとドラムについて解説し、リズム楽器への理解を深めます。
- ⑨ コード感を表現するギターとキーボードについて解説し、コード楽器への理解を深めます。
- ⑩ 各自のオリジナル曲制作に取りかかります。
- ⑪ オリジナル曲作りを進めながら、バンド伴奏の為のマスターリズム譜の書き方を覚えさせます。
- ⑫ 曲作りの仕上げ、マスターリズム譜を完成させます。ミスがないか最終確認もしっかりやります。
- ⑬ バンドで歌う際に注意すべき事を指導し、次回のリハーサルにつなげて行きます。
- ⑭ 試験に向けてリハーサルを行いながら、アレンジを固めて行きます。
- ⑮ オリジナル曲をバンド伴奏にて歌唱します。（テスト）

期末試験評価方法・評価基準

出席及び取り組む姿勢、そろそろ成果も重視します。
出席 30% 平常点 30% 試験 40%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ピアノ弾き語り I
担当講師名	高島みほ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ジャズボーカリストとして多数のライブ活動、アルバムリリースの経験を持ちます。

授業内容

ピアノ弾き語の基礎から学んでいきます。コードのおさえ方から始まり、パターンを覚え、応用につなげます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音楽の基礎であるセオリーを頭に入れた上で、コードの成り立ちを理解する事を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①基礎的なコードを説明し、実際にピアノに触れ、音を目で確かめます。
- ②演奏に必要なコードの転回形を練習します。
- ③転回形でピアノ伴奏にチャレンジします。
- ④ベースラインの動かし方とそれに合わせた右手の動かし方を練習します。
- ⑤アルペジオの基礎練習をします。
- ⑥復習を兼ねて、転回形、アルペジオをすべて盛りこんで伴奏を作ります。
- ⑦課題曲発表をします。

中間試験評価方法・評価基準

授業で学んだ内容を理解し、課題曲に取り入れる事が出来ているかを見ます。
試験30% 出席70%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧フィルインを入れる場所を学習し、パターンを作ってみます。
- ⑨メジャーキーでの伴奏と移調の練習をします。
- ⑩マイナーキーでの伴奏と移調の練習をします。
- ⑪課題曲を自分の歌のキーに移調して練習します。
- ⑫オンコードの弾き方をマスターします。
- ⑬テンションコードの練習をします。
- ⑭復習をしながら、一人ずつ中間発表をします。
- ⑮課題曲を一人ずつ発表します。

期末試験評価方法・評価基準

授業で学んだ内容を理解し、課題曲に取り入れることが出来ているか、7th, 9th, add, sus, dimを理解しているかを見ます。試験30% 出席70%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ピアノ弾き語りII
担当講師名	高島みほ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はジャズボーカリストとして多数のライブ活動、アルバムリリースの経験を持ちます。

授業内容

ピアノ弾き語りの基礎を復習しつつ、さらに発展した内容を身につけて行きます。コードの転回形や、元の曲からのアレンジにチャレンジしていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

出来た時の喜びや、音色の美しさを実感しましょう。日々地道に練習し、目標を決め、そこにたどり着ける事を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①各自、歌の音域を知り、移調し、楽譜の書き方を覚えます。
- ②自由曲を選曲し、自分のキーに移調します。
- ③曲全体の構成を考えてコード譜を書き、練習します。
- ④強弱をつけ曲にストーリーを持たせます。
- ⑤4回目ですらった強弱をさらに繊細にする作業を行います。
- ⑥自由曲弾き語りを中間発表します。
- ⑦ダイナミクスを付けながら発表します。

中間試験評価方法・評価基準

授業で学んだ内容を理解し、課題曲に取り入れることが出来ているか、曲全体の構成を考え、まとめられているかをみます。試験30% 出席70%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧コードにテンションを付け、ダイナミクスを楽譜に書き込みます。

- ⑨ペアを組んで、曲のイメージを表現します。
- ⑩ペアを組んで、曲のイメージを相手に伝え楽譜に書き込みます。
- ⑪イントロとエンディングを付けます。
- ⑫三拍子系の曲を聞き弾いてみます。
- ⑬ビートにあったピアノのリズム出し方を練習します。
- ⑭不明な点をこの時間で全てクリアにします。
- ⑮課題曲を発表します。

期末試験評価方法・評価基準

テンションコード、オンコード、ダイナミクス、イントロ、エンディング、ビート感全てを評価します。「作品」が作られているか、歌の表現とピアノのダイナミクスがマッチしているかを見ます。試験30% 出席70%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ギター弾き語り I
担当講師名	吉岡靖高
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター

担当科目に関連する実務経歴

講師は数多くのアーティストとの共演、サポート、自身のリーダーアルバムなど音楽業界での実務経験を持ちます。

授業内容

ヴォーカリストとしてギターを弾きながら、ソロまたは少人数のアンサンブルで歌う事を前提としたギタープレイやテクニックについて初歩から学ぶ初心者対象のクラスです。基本的なフォームからコードストローク、フィンガーピッキングというテクニックなどを学び、ライブなどステージで弾き語りができるようになることを目標とします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

春学期では、まずギターに慣れる。そしてコードフォームを覚えてコードチェンジを追えるようになることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①演奏の基本姿勢やチューニングの仕方、押弦方法、弦の種類、ピックの種類などの知識を学びます。
- ②コードとストローク(1)：オープンコードの押え方とストロークの基本フォームを学びながら8ビートの曲を演奏します。
- ③コードとストローク(2)：オープンコードの押え方とストロークの基本フォームを学びながら8ビートの曲を演奏します。
- ④コードとストローク、アルペジオ(1)：オープンコードの押え方とストロークの基本フォームを確認しながら、アルペジオが入る曲を演奏します。
- ⑤コードとストローク、アルペジオ(2)：オープンコードの押え方とストロークの基本フォームを確認しながら、アルペジオが入る曲を演奏します。
- ⑥復習：このクォーターで学習した楽曲すべてを復習します。
- ⑦クォーター末試験：課題曲を自分で1曲選んで弾き語りを行います。

中間試験評価方法・評価基準

出席率 30% 達成度 30% 試験（実技）40% どのくらい上達したか、頑張ったかを重要視します。日常ギターに触れる時間を多く持つことが大切です。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧バレーコード(1)：バレーコードの押さえ方を学びます。バレーコードがある曲を演奏します。
- ⑨バレーコード(2)：バレーコードの押さえ方を学びます。バレーコードがある曲を演奏します。
- ⑩バレーコード(3)：バレーコードに慣れるようにして行きます。バレーコードがあり、コードチェンジが少し早い曲を演奏します。
- ⑪バレーコード(4)：バレーコードに慣れるようにして行きます。バレーコードがあり、コードチェンジが少し早い曲を演奏します。
- ⑫メンテナンス、知識：夏休み前にギターの手入れの方法、弦交換等の方法を学びます。実際に弦の交換や調整の実習をします。
- ⑬リズム、グルーブ：楽曲の歌に合わせたグルーブをストロークで作ることを学びます。
- ⑭復習：春学期で学習した楽曲すべてを復習します。
- ⑮期末試験：課題曲を自分で1曲選んで弾き語りをします。

期末試験評価方法・評価基準

出席率 30% 達成度 30% 試験（実技）40% どのくらい上達したか、頑張ったかを重要視します。日常ギターに触れる時間を多く持つことが大切です。

特記事項

アコースティックギターを使用します。各自で用意して下さい。
ギターを新たに購入予定の場合は、担当講師に相談して下さい。購入のアドバイスをします。

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ギター弾き語りⅡ
担当講師名	吉岡靖高
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター

担当科目に関連する実務経歴

講師は数多くのアーティストとの共演、サポート、自身のリーダーアルバムなど音楽業界での実務経験を持ちます。

授業内容

ヴォーカリストとしてギターを弾きながら、ソロまたは少人数のアンサンブルで歌う事を前提としたギタープレイやテクニックについて初歩から学ぶ初心者対象のクラスです。基本的なフォームからコードストローク、フィンガーピッキングというテクニックなどを学び、ライブなどステージで弾き語りができるようになることを目標とします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

秋学期では、いろいろなコードやリズム、演奏方法を覚えて自分の弾き語り演奏に生かせることができるようになることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①フィンガースタイル(1): フィンガースタイルの弾き方を学習します。
- ②フィンガースタイル(2): フィンガースタイルでアルペジオを弾いてみます。
- ③ハイブリッドピッキング: ピックと指を両方使って弾く方法を学習します。
- ④ボサノバ(1): ボサノバのリズムやテンションコードの押弦について学習します。
- ⑤ボサノバ(2): フィンガーピッキングでボサノバの曲を演奏します。
- ⑥復習: このクォーターで学習した楽曲すべてを復習します。
- ⑦クォーター末試験: 課題曲を自分で1曲選んで弾き語りをします。

中間試験評価方法・評価基準

出席率 30% 達成度 30% 試験（実技）40% どのくらい上達したか、頑張ったかを重要視します。日常ギターに触れる時間を多く持つことが大切です。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧レパートリーを増やす(1): いろいろなコードチェンジ、いろいろなスタイルの楽曲をその曲に合わせた弾き方を選んで演奏します。様々な曲を経験していきます。
- ⑨レパートリーを増やす(2): いろいろなコードチェンジ、いろいろなスタイルの楽曲をその曲に合わせた弾き方を選んで演奏します。様々な曲を経験していきます。
- ⑩レパートリーを増やす(3): いろいろなコードチェンジ、いろいろなスタイルの楽曲をその曲に合わせた弾き方を選んで演奏します。様々な曲を経験していきます。
- ⑪レパートリーを増やす(4): いろいろなコードチェンジ、いろいろなスタイルの楽曲をその曲に合わせた弾き方を選んで演奏します。様々な曲を経験していきます。
- ⑫レパートリーを増やす(5): いろいろなコードチェンジ、いろいろなスタイルの楽曲をその曲に合わせた弾き方を選んで演奏します。様々な曲を経験していきます。
- ⑬レパートリーを増やす(6): いろいろなコードチェンジ、いろいろなスタイルの楽曲をその曲に合わせた弾き方を選んで演奏します。様々な曲を経験していきます。
- ⑭復習: 秋学期で学習した楽曲すべてを復習します。
- ⑮期末試験: 課題曲を自分で1曲選んで弾き語りをします。

期末試験評価方法・評価基準

出席率 30% 達成度 30% 試験(実技) 40% どのくらい上達したか、頑張ったかを重要視します。日常ギターに触れる時間を多く持つことが大切です。

特記事項

アコースティックギターを使用します。各自で用意して下さい。

学科名	ヴォーカル学科
科目名	コンピュータミュージック I
担当講師名	滝口 北斗
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は DTM/DAW を用いた楽曲制作(作編曲・レコーディング)やアーティストプロデューサー(配信レーベルの主宰・運営)の実務経験を持ちます。

授業内容

現在の音楽制作の現場で欠かすことの出来ない DTM/DAW のシステムを用いた楽曲(トラック)制作の方法を学びます。

自身では演奏出来ない楽器を MIDI データとして作成する方法を身につけ、オリジナル楽曲のクオリティアップに役立てられるように、必要最低限のオペレーション能力の習得を目指します。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

DTM/DAW アプリケーションを用いた音楽制作の基礎知識とプロセスを理解します。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① PC を用いた音楽制作の実状について。
- ② DTM/DAW を使って出来る事をデモンストレーション作品を聴いて学ぶ。
- ③ システムの構成と信号の流れを学び、音を出してみる。
- ④ システムの構成と操作方法を学び、自分の好きな音が鳴らせるセッティングをする。
- ⑤ キーエディターでステップインプットの方法を学ぶ。
- ⑥ ドラムエディターと鍵盤を使い譜例通りのパターンを作成、修正、編集する。
- ⑦ リアルタイム入力によるオリジナルのパターンを作成、修正、編集する。

中間試験評価方法・評価基準

本試験 40% : オリジナルテンプレートとドラムのデータを確認し、オペレーションの理解度を見ます。

平常点 60% : 授業態度。

授業計画 (8回目から15回目)

- ⑧ ステップ入力でコードを加える。
- ⑨ ステップ入力でメロディを加える。
- ⑩ 実際の作品データ入力。(オリジナル曲、コピー曲共にスコアもしくはコード/メロディ/構成譜を用意。)
- ⑪ ミスタッチやタイミングの修正をする。
- ⑫ コンピュータの基本キーボードショートカットの学習。
- ⑬ 作品を試聴しながらチェック&アドバイス。
- ⑭ 作品の書き出し方と変換方法。iTunes を用いた音楽ファイルの管理方法について。
- ⑮ ここまでの制作内容をバランスを取り、オーディオファイルに書き出す。

期末試験評価方法・評価基準

本試験 40% : 基礎的なオペレーションが身につき、作品に反映されているかを見ます。
平常点 60% : 授業態度。

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	コンピュータミュージックⅡ
担当講師名	滝口 北斗
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は DTM/DAW を用いた楽曲制作(作編曲・レコーディング)やアーティストプロデューサー(配信レーベルの主宰・運営)の実務経験を持ちます。

授業内容

現在の音楽制作の現場で欠かすことの出来ない、DTM/DAW のシステムを用いた楽曲(トラック)制作の方法を学びます。

春学期に学習した内容を踏まえて、後期はオリジナル作品のデータ制作を行います。様々な楽器の構造や奏法、音色の使い方などの部分も学び、それらをデータに反映させる方法の習得を目指します。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

最終形のアレンジをアレンジシャーに託す事も視野に入れ、イメージが伝わりやすいトラック制作方法や簡単なオーディオレコーディング、ミックスなどにも触れ、実際の楽曲制作現場の流れを体感出来るようにして行きます。

授業計画 (1回目から7回目)

- ① 自分が描く作品の完成形を目指したプランニングを行う。
- ② 方向性に合わせた素材(コード進行や Loops など)の収集を行う。
- ③ 収集した素材を組み合わせ、楽曲の構成を作っていく。
- ④ 描いた構成に合わせ、リズムトラック、コード、ベースなどを作っていく。
- ⑤ 出来上がったトラックにメロディーラインやコーラスラインを重ねてみる。
- ⑥ 出来上がったトラックに仮歌を入れてラフミックス。スマートフォンの活用。
- ⑦ ラフミックスをオーディオファイルに書き出す。

中間試験評価方法・評価基準

本試験 40% : 各自プランニングに基づいた作品データを確認し、アドバイスをします。
平常点 60% : 授業態度。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 完成形を見据え、現状における修正点の把握や最終的に必要な素材収集などを行う。
- ⑨ リズミ的なアプローチからのアレンジメントとオーディオデータの簡単な波形編集。
- ⑩ フレーズ、音色的なアプローチからのアレンジメントとエフェクトの基礎知識。
- ⑪ 楽曲構成の入れ替え、移調やフルサイズの作成。波形編集の応用。
- ⑫ ファイルのエクスポートとインポートについて。
- ⑬ 各パートの処理(音色や表現)を煮詰める。
- ⑭ 作品を試聴しながらチェック&アドバイス。
- ⑮ 完成した作品を様々なフォーマットに書き出す。

期末試験評価方法・評価基準

本試験 60%：受講学生には最低でも1曲のオリジナルトラックを持って卒業・進級して欲しいと思っています。

アレンジャーに依頼する所までのデータが出来れば50%達成。それ以上の学生は、プランニング通り且つ、1年間学習した内容が作品に反映されているかを見ます。

平常点 40%：授業態度。

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	プレゼンテーションⅡ
担当講師名	高松 俊
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はメジャーレーベルの制作ディレクターとして多数のアーティストを担当するなど、音楽産業での実務経験を持ちます。

授業内容

ヴォーカリストにとって自己表現は非常に重要です。多くの人に自分の伝えたいことをアピールする訓練として一人ずつプレゼンテーションを行っていきます。さらに、ミュージック・ビジネスの仕組みや内容を理解し、プロの世界の現状を把握して個性とテクニック、プロモーション戦略の必要性等々、ビジネスとしての音楽の定義を掘り下げて考えていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分の考えを明確に人に伝えるということが確実にできるようにする。現状を把握して自分の立ち位置や目標を客観的に判断できる能力と音楽業界基礎知識を身につける。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業概要説明
- ② 自己表現実習 1
- ③ 自己表現実習 2
- ④ 自己表現実習 3
- ⑤ 自己表現実習 4
- ⑥ 自己表現実習 5
- ⑦ 試験（他者のプレゼンを評価しレポート）

中間試験評価方法・評価基準

出席点 40% 平常点 40% 試験 20%
日々の出席と前向きに取り組む姿勢を評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ プロの音楽ビジネス 1 (音楽業界の現状)
- ⑨ プロの音楽ビジネス 2 (セルフプロデュース)
- ⑩ プロの音楽ビジネス 3 (権利関係基礎知識)
- ⑪ プロの音楽ビジネス 4 (著作権基礎 1)
- ⑫ プロの音楽ビジネス 5 (著作権基礎 2)
- ⑬ プロの音楽ビジネス 6 (オーディション関連)
- ⑭ プロの音楽ビジネス 7 (社会人への準備、基本マナー)
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

出席点 40% 平常点 40% 試験 20%
日々の出席と前向きに取り組む姿勢を評価します。

特記事項

学科名	ヴォーカル学科／プロミュージシャン学科／アレンジ・作曲学科
科目名	デビュー・就職講座Ⅰ・Ⅱ
担当講師名	稲見英夫
学期	集中（春・秋）
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はこの科目の内容に関連する実務経験（TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、マネージャーとしての活動）を持っております。

授業内容

ヴォーカリストとして、バンドとして、アーティストとして、音楽クリエイターやプロデューサーとしてデビューすることや自主的な専門活動を行うこと、または就職や進学を目指す卒業年次生が必要な知識を身に付けて希望進路の実現をサポートするための授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

デビュー、専門活動、就職、進学に関しての曖昧な情報や噂だけに基づいて行動すると進路実現が達成できません。この講座を受講することによって正確な情報を得て、的確な行動を行い、進路実現を達成できることを目標とします。春学期では全員が「プロフィール」と「デモ音源」を制作し、秋学期では自分の希望進路に基づいた就業活動内容のレポートを制作します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 進路についての考察を行い、進路の選択肢をしっかりと把握したうえで、自分の進路を決めるために注意すべきことを理解します。
- ② 専門活動・就職・進学について、それぞれの具体的な内容を把握します。
- ③ 安易にフリーターになってしまうと生じる中長期的な危険性と、フリーターを選択する場合の諸条件について理解します。
- ④ 音楽家は具体的にどのような手段で収入を得ているのかを把握します。
- ⑤ 音楽家としての能力や技術以外にも必要とされる事柄について把握します。
- ⑥ 音楽家になるために必要な基本ツールとしてのプロフィールとデモ音源の作成方法を学習します。
- ⑦ 自分の魅力を最大限に引き出せるデモ音源とプロフィールを作成し、提出します。

中間試験評価方法・評価基準

制作した「デモ音源」と「プロフィール」を提出。主にその体裁に対しての評価をします。（100%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 就職講座（1）アルバイトと就職における金銭面や待遇面等の違いについて
- ⑨ 就職講座（2）自分に合った職種の探し方
- ⑩ 就職講座（3）エントリーシートと履歴書の書き方と要点
- ⑪ 就職講座（4）面接対策
- ⑫ 就職講座（5）求人紹介と応募のすすめ（前編）
- ⑬ 就職講座（6）求人紹介と応募のすすめ（後編）
- ⑭ キャリアカウンセリングを用いた進路情報収集や進路相談等の活用方法について把握します。
- ⑮ 自分の希望進路に基づいた就業活動内容のレポートを制作し、提出します。

期末試験評価方法・評価基準

専門活動、就職、進学の中から希望の進路を1つ選択し、その就業活動実績に基づいた内容のレポートを提出。主にその内容と体裁に対しての評価をします。（100%）

特記事項

集中講座

学科名	ヴォーカル学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	ツァイ・ペイルン
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

尚、講師は音楽留学のカウンセリング、大学受験英語対策等の実務経験がある経験豊富なプロフェッショナルです。

授業内容

英語による日常的な言語活動（聴く・話す・読む・書く）が行えるよう、自然かつ流暢に英会話ができるようにする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自信を持って英語で会話できるようになるスキルを身につける。そのために必要な語彙と文法の習得及び、様々な内容のテキスト（グループディスカッション）の使用により、英語コミュニケーション能力をも養成する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①挨拶、自己紹介
- ②楽器紹介Ⅰ
- ③楽器紹介Ⅱ
- ④どんな音楽が好きですか？
- ⑤作曲家&作詞家紹介
- ⑥期中復習
- ⑦期中試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧音楽用語
- ⑨海外旅行Ⅰ
- ⑩海外旅行Ⅱ
- ⑪発表会 スピーチⅠ
- ⑫発表会 スピーチⅡ
- ⑬音楽祭紹介Ⅰ
- ⑭期末復習
- ⑮期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

特記事項

教材・参考書：担当教員より指示される。辞書は必ず持参すること。

学科名	ヴォーカル学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	ツアイ・ペイルン
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

尚、講師は音楽留学のカウンセリング、大学受験英語対策等の実務経験がある経験豊富なプロフェッショナルです。

授業内容

英語による日常的な言語活動（聴く・話す・読む・書く）が行えるよう、自然かつ流暢に英会話ができるようにする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自信を持って英語で会話できるようになるスキルを身につける。そのために必要な語彙と文法の習得及び、様々な内容のテキスト（グループディスカッション）の使用により、英語コミュニケーション能力をも養成する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①日常英会話（学校）
- ②将来の計画
- ③音楽の履歴を書く
- ④音楽のプロフィールを書
- ⑤リハーサル演奏技法
- ⑥期中復習
- ⑦期中試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧面接(大学)
- ⑨面接(仕事)
- ⑩演奏会感想
- ⑪コンサート紹介Ⅰ
- ⑫コンサート紹介Ⅱ
- ⑬マスタークラス
- ⑭期末復習
- ⑮期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

特記事項

教材・参考書：担当教員より指示される。辞書は必ず持参すること。

学科名	ヴォーカル学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	岩橋 宣輔
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はヨーロッパにて15年間の在住経験を持ち、株式会社テレビ朝日での映像翻訳の実務経験、ならびにキングレコード株式会社での英仏独文翻訳およびライナーノート執筆の実務経験を持ちます。

授業内容

英会話ならびに英文法を、主に洋楽を用いた音楽的観点から学びます。文法は義務教育レベルの基本を主軸とし、限られた語彙・学習量での最大限のコミュニケーションスキルの獲得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

英語は難しい勉強であるという心理的なブロックを排し、母国語と同じような仕組みの上になり立っているコミュニケーションツールであるということ、および西洋音楽発展の歴史のうえで極めて密接な関係にあるということを理解する見地を育みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目概要：講師自己紹介ならびにコース説明
- ② 音楽史と西洋言語の関係性概論：教会音楽の樹立からポップミュージックの発展に至るまでの音楽の歴史と、西洋言語の密接な関係性
- ③ SVO 基本文型：英語の核となる SVO 基本文型（主語・動詞・目的語）とその応用性
- ④ 発音(1)：英語の基本概念となる音節についての説明、ならびに子音と母音の分離
- ⑤ 発音(2)：子音と母音の個別発音演習
- ⑥ 歌唱：詩や楽曲構造の解説の上、英語歌曲の演習
- ⑦ クォーター末試験：歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コミュニケーション演習(1)：グループで単語当て人狼ゲーム「ワードウルフ」を行い、コミュニケーション能力と言い換えスキルの獲得
- ⑨ コミュニケーション演習(2)：同上。回数を重ねることで徐々に英語のみでのゲームの成立を目指します
- ⑩ 英文法(1)：冠詞および過去形・過去分詞の違い
- ⑪ 英文法(2)：前置詞および句動詞
- ⑫ 総復習：夏期休暇明けのため、第1クォーターを含む学習内容の総復習
- ⑬ 期末試験準備(1)：少人数グループでの英語楽曲歌唱試験に向けての楽曲の開示ならびに解説
- ⑭ 期末試験準備(2)：同上。上記楽曲の実技演習
- ⑮ 学期末試験：グループでの英語楽曲歌唱試験

期末試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等进行评估します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	岩橋 宣輔
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はヨーロッパにて 15 年間の在住経験を持ち、株式会社テレビ朝日での映像翻訳の実務経験、ならびにキングレコード株式会社での英仏独文翻訳およびライナーノート執筆の実務経験を持ちます。

授業内容

英会話ならびに英文法を、主に洋楽を用いた音楽的観点から学びます。文法は義務教育レベルの基本を主軸とし、限られた語彙・学習量での最大限のコミュニケーションスキルの獲得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

英語は難しい勉強であるという心理的なブロックを排し、母国語と同じような仕組みの上になり立っているコミュニケーションツールであるということ、および西洋音楽発展の歴史のうえで極めて密接な関係にあるということを理解する見地を育みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目概要：講師自己紹介ならびにコース説明
- ② 音節(1)：英語の基本概念となる音節についての説明、ならびに子音と母音の分離
- ③ 音節(2)：音節の数え方および発音実習
- ④ SVO 基本文型：英語の核となる SVO 基本文型（主語・動詞・目的語）とその応用性。春学期に引き続き、最重要テーマのため復習します
- ⑤ コミュニケーション演習(3)：様々な文型の例文を用いて、生徒間での質疑応答ならびに会話演習を行います
- ⑥ 歌唱：詩や楽曲構造の解説の上、英語歌曲の演習
- ⑦ クォーター末試験：歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。
口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コミュニケーション演習(4)：様々な文型の例文を用いて、生徒間での質疑応答ならびに会話演習を行います
- ⑨ クリスマスキャロル歌唱：西洋において重要な音楽文化であるクリスマスキャロルについての説明と歌唱
- ⑩ 総復習：冬期休暇明けのため、第3クォーターを含む学習内容の総復習
- ⑪ コミュニケーション演習(5)：グループで単語当て人狼ゲーム「ワードウルフ」を行い、コミュニケーション能力と言い換えスキルの獲得
- ⑫ コミュニケーション演習(6)：同上。より大人数でのグループ分けによるディスカッション形式でのゲームの成立を目標とします
- ⑬ 期末試験準備(1)：少人数グループでの英語楽曲歌唱試験に向けての楽曲の開示ならびに解説
- ⑭ 期末試験準備(2)：同上。上記楽曲の実技演習
- ⑮ 学期末試験：グループでの英語楽曲歌唱試験

期末試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

秋学期は春学期から継続しての受講者と新規受講者が混在するため、カリキュラムが大幅に変更される可能性があります。

学科名	ヴォーカル学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	高梨 朋子・酒井 佳奈子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

このコースではいろいろなテーマを基に、自分が言ってみたい、聞いてみたいと思う体験を積んでいきます。チャンツのリズムを楽しみながら英語表現を身につけ、英語を聞く楽しさ、英語を話す楽しさを実感します。英語の曲も歌います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期の終わりには、自分の英語で伝えたいことを発表し、外国人と進んでコミュニケーションできるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Nice to meet you! 自分から挨拶してみよう
- ②I'm from Japan. 自分の出身地を紹介しよう
- ③What's her name? 友だちにインタビューしてみよう
- ④Where do you live? その人のことを一言で表してみよう
- ⑤She is interesting. その人の特徴を伝えよう
- ⑥This is my mother. 自分の大切な人やものを紹介しよう
- ⑦Presentation（発表） 今まで習った英語で自己紹介や自分アピールの発表を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%
 今求められる英語力とはコミュニケーションする力です。評価は普段の出席及び、間違いを恐れずに自分の思ったことを英語で表現しようとする態度を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Three pizzas, please. いくつ欲しいのかを伝えよう

- ⑨How much is this bag? 買い物をしてみよう
- ⑩Where are my keys? 家の中に何があるか教えよう
- ⑪Is there a bus to the airport? 行きたい場所をたずねてみよう
- ⑫What time does the library open? 時間を伝えよう
- ⑬I go shopping on weekends. 週末には何をするかを伝えよう
- ⑭Review 今学期の総復習をしよう
- ⑮Presentation (発表) 外国人レッスンの中で、週末の予定を紹介しよう

期末試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

コミュニケーションに必要なのは、難しい単語や文法よりも、何とか相手に伝えようとする気持ちや態度です。評価は普段の出席及び、学んだ英語を使って自分の思いを伝えたり、進んでコミュニケーションしようとする態度を重視します。

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	高梨 朋子・酒井 佳奈子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

このコースではいろいろなテーマを基に、自分が言ってみたい、聞いてみたいと思う体験を積んでいきます。チャンツのリズムを楽しみながら英語表現を身につけ、英語を聞く楽しさ、英語を話す楽しさを実感します。英語の曲も歌います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期の終わりには、自分の英語で伝えたいことを発表し、外国人と進んでコミュニケーションできるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Where do you work? どんな職業に就きたいかを伝えよう
- ②I do karaoke on Wednesdays. 普段していることを話してみよう
- ③I can play baseball. できることができるのかを伝えよう
- ④I like Italian food. 簡単に作り方を教えよう
- ⑤Can you call back later? 電話をしてみよう
- ⑥Would you like to go to the movies? 上手な返答の仕方を考えよう
- ⑦Presentation（発表） 今まで習った英語で自己紹介や自分をアピールする発表を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

今求められる英語力とはコミュニケーションする力です。評価は普段の出席及び、間違いを恐れずに自分の思ったことを英語で表現しようとする態度を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Please don't play loud music. ルールについて話してみよう
- ⑨I have a headache. 症状を伝えよう
- ⑩I'm going to go sightseeing. 休暇に何をするか話してみよう
- ⑪How was your vacation? 休暇の思い出を伝えよう
- ⑫How much do you spend each month? お金の使い方を話してみよう
- ⑬How do I get to the bank? わかりやすく道案内しよう
- ⑭Review 今学期の総復習をしよう
- ⑮Presentation (発表) 外国人レッスンの中で、休暇の思い出を紹介します

期末試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

コミュニケーションに必要なのは、難しい単語や文法よりも、何とか相手に伝えようとする気持ちや態度です。評価は普段の出席及び、学んだ英語を使って自分の思いを伝えたり、進んでコミュニケーションしようとする態度を重視します。

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	ライブⅡ
担当講師名	学科
学期	通年
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

2 年次在籍中に実施する学科主催ライブ、自主企画ライブ、個人で行う外部演奏活動を通して、ヴォーカリストとしての自分の方向性を見極め、卒業後の可能性を探る。また、出演・演奏のみならず、イベントの実施に必要な企画、運営、収支コントロールを体験し、プロデュース力を身につける。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

3 クォーターの自主企画ライブの立ち上げからライブ実施まで、完全に学科のサポートなしで、企画・立案、オーディション参加、バンドメンバー、練習スタジオブッキング、楽器・機材手配、広報物作成、当日運営、演奏までを実施する。年度末実施予定の卒業公演への布石とする。

授業計画（1 回目から 7 回目）

中間試験評価方法・評価基準

学年自主企画ライブおよび個人で参加したライブに伴う全ての要素について、個々の成果を評価する。

授業計画（8 回目から 15 回目）

期末試験評価方法・評価基準

学年自主企画ライブおよび個人で参加したライブに伴う全ての要素について、個々の成果を評価する。

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	卒業公演
担当講師名	学科
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

2年間の在学中に得た全ての学習成果の集大成として、外部ライブハウスにて卒業公演を実施する。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ライブタイトル、コンセプト、スケジュール、場所、収支、物品、関係する人など、卒業後自分自身が直面するであろう全ての要素に気を配り、演奏内容の充実はもとより、卒業後の音楽人としてのイベント企画・運営能力を獲得する。

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

卒業公演に関連する全ての準備、運営への参加度を評価する

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

卒業公演に関連する全ての準備、運営への参加度、および演奏曲のクオリティーを評価する。

特記事項

学科名	ヴォーカル学科
科目名	オーディションⅡ
担当講師名	
学期	通年
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

学内で学科が推奨するオーディション（公開実技試験など）や、学外での業界オーディションに積極的に参加し、合格⇒デビューという方程式が成立しなくとも、実体験を積むことで成果を確認し、日々の授業やレッスンの目的意識を高める

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実際、学内・外レベルで日々の研鑽が成果として評価されるかを自身で確かめ、その結果を分析、今後のレベルアップにつなげる為にオーディションを受ける
合格＝スクール勧誘などの可能性が高いのでその都度学科に相談の必要性あり

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

自身のレベルアップにどれだけ積極性を持てたか、視野を広げられたか、実際の合否を評価

特記事項

学科名	ヴォーカル学科／プロミュージシャン学科／アレンジ・作曲学科
科目名	インターンシップ I・II
担当講師名	
学期	春・秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

学科が認めた外部の催事やメディア出演等の学外活動、外部企業や音楽事務所等での研修を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各々の進路を踏まえた学外活動や、企業研修を体験することにより、実務的な経験と実績を得ることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

活動や研修に対しての積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢、実績等を評価します。

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

活動や研修に対しての積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢、実績等を評価します。

特記事項

学外活動や企業研修の機会を得る為には、それ相応の知識と技術に加え、コミュニケーション能力や各種マナーをはじめとする社会性も十分に備わっていることが必要になります。

す。